

阪南市埋蔵文化財報告 37

馬川北遺跡発掘調査報告書

- 89-1 区 -

2005年

阪南市教育委員会

はしがき

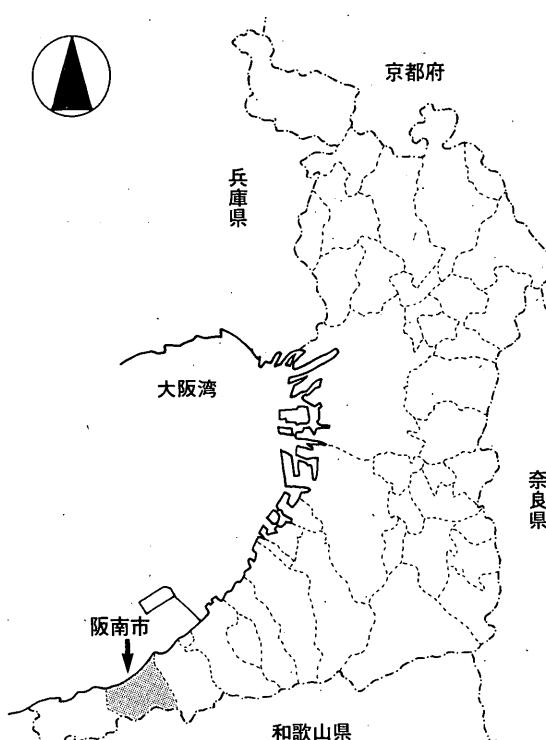
阪南市内には、縄文時代草創期の有茎尖頭器が採取されている神光寺（蓮池）遺跡から、近世期の地元の主要産物であった「和泉砂岩」を採取した石切場跡まで約60ヶ所の埋蔵文化財の包蔵地が知られています。

本書は、市域の東端部を流れる男里川左岸に位置する馬川北遺跡の発掘調査報告書です。この遺跡は、本書に記載した発掘調査により発見周知される事になりました。調査が行われた1989（平成元）年度以降は本書の調査例以外、面的な調査は行われていません。本報告では、縄文時代晩期の土器が出土していることが特筆されます。わずか数点のみの出土ですが、大阪府南部の数少ない縄文遺跡のひとつとして、今後留意する必要があるのではと考えています。

末筆にはなりましたが、本調査にあたり、ご協力をたまわりました関係者のみなさまに感謝申し上げます。

2005年9月

阪南市教育委員会
教育長 川村一郎



第1図 阪南市位置図

例　　言

1. 本書は阪南町(当時)教育委員会が、1989(平成元)年度に町道新設事業に伴い、教育委員会社会教育課(当時)が発掘調査を実施した馬川北遺跡発掘調査報告書である。
2. 調査は阪南町教育委員会社会教育課(当時)三好義三を担当として実施した。
3. 本書内で示した標高はT.P.であり、方位は既製の地形図などを使用したもの除去して磁北である。
4. 調査にあたっては、調査地周辺の土地所有者など関係者各位の理解と協力を得た。ここに記して感謝の意を表したい。
5. 本書の執筆・編集は三好義三、田中早苗が行った。また、発掘調査、実測図などの作成は、下記の調査従事者による。
6. 本書における記録は実測図、写真、カラースライドなどに保存されている。当教育委員会にて保管しているので、広く活用されたい。

調査従事者

宇沢克之、木下楠治、井上祥子、和田旬世、西畠昭男、森原　洋、角谷彰洋、小林克子、島田万帆

目　　次

第1章　調査に至る経過	4
第2章　遺跡の位置および周辺の環境	5
第3章　調査の概要	7
第4章　まとめ	13
遺物観察表	14

頃跡跡跡跡跡跡跡跡跡跡跡跡跡跡跡跡跡跡跡跡跡跡跡跡跡
 遺遺遺遺遺遺遺遺遺遺遺遺遺遺遺遺遺遺遺遺遺遺遺遺遺
 田西南谷寺南西北南北取遺東南溪北取岸遺水手寺切場
 堂出保田田山口烟方田取取鳥山作中山鳥西海岸遺遺
 室向久高高向小正黑黑鳥鳥鳥西戎田箱山馬和箱尾下黑尾波高道
 42 43 44 45 46 47 48 49 50 51 52 53 54 55 56 57 58 59 60 61 62 63 64 65 66 67 68 69 70 71 72 73 74 75
 墳跡跡群跡跡跡跡跡跡跡跡跡跡跡跡跡跡跡跡跡跡跡跡
 古寺(長桑古寺)墳跡遺跡遺跡遺跡遺跡遺跡遺跡遺跡
 池(長桑古寺)墳跡遺跡遺跡遺跡遺跡遺跡遺跡遺跡
 田(平野寺)山山山山山山山山山山山山山山山山
 田(平野寺)田田石田川松東切池(運池)西山山山山山
 田(重文)波太神社4殿未社三神社
 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45 46 47 48 49 50 51 52 53 54 55 56 57 58 59 60 61 62 63 64 65 66 67 68 69 70 71 72 73 74 75

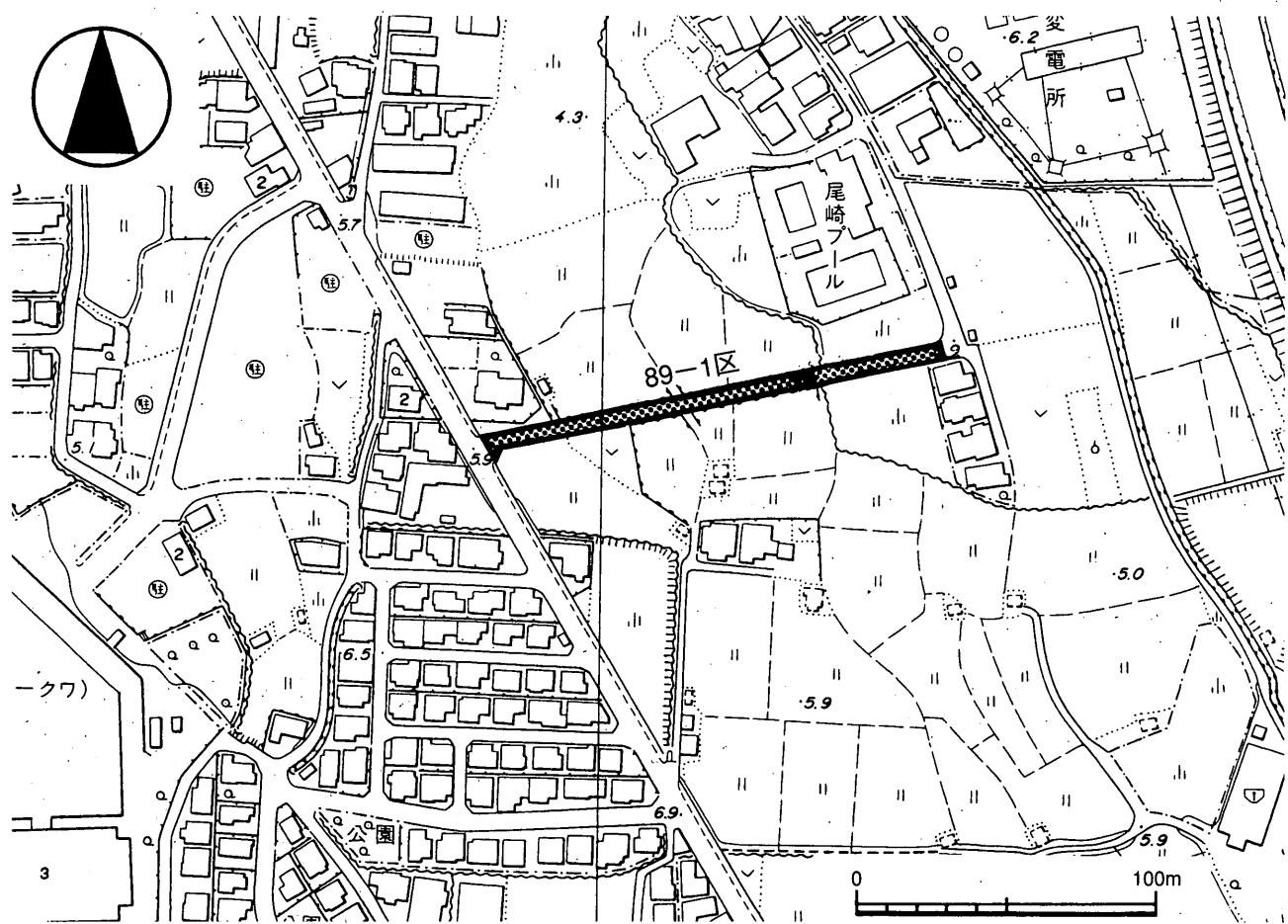


第2図 阪南市埋蔵文化財分布図

第1章 調査に至る経過

馬川北遺跡は、阪南町（当時）が1989（平成元）年に、道路新設工事に先立って実施した埋蔵文化財確認調査によって発見周知された。この確認調査は、道路の新設部分約160mに8ヶ所のトレンチを設定して行った。このうち西側の4ヶ所のトレンチで遺物の出土が認められたため、その4ヶ所を含む西側部分の約55mについて、Aトレンチ、Bトレンチとして全面調査を行った。なお、東側の4ヶ所のトレンチについては、遺物包含層が存在しなかった。

以下にこの西側部分についての調査報告を行う。

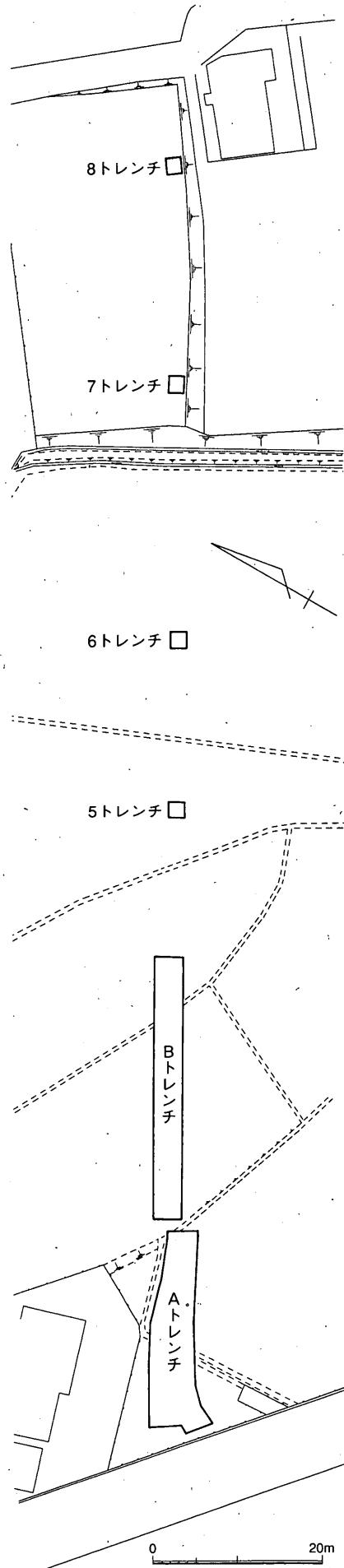


第3図 調査区位置図

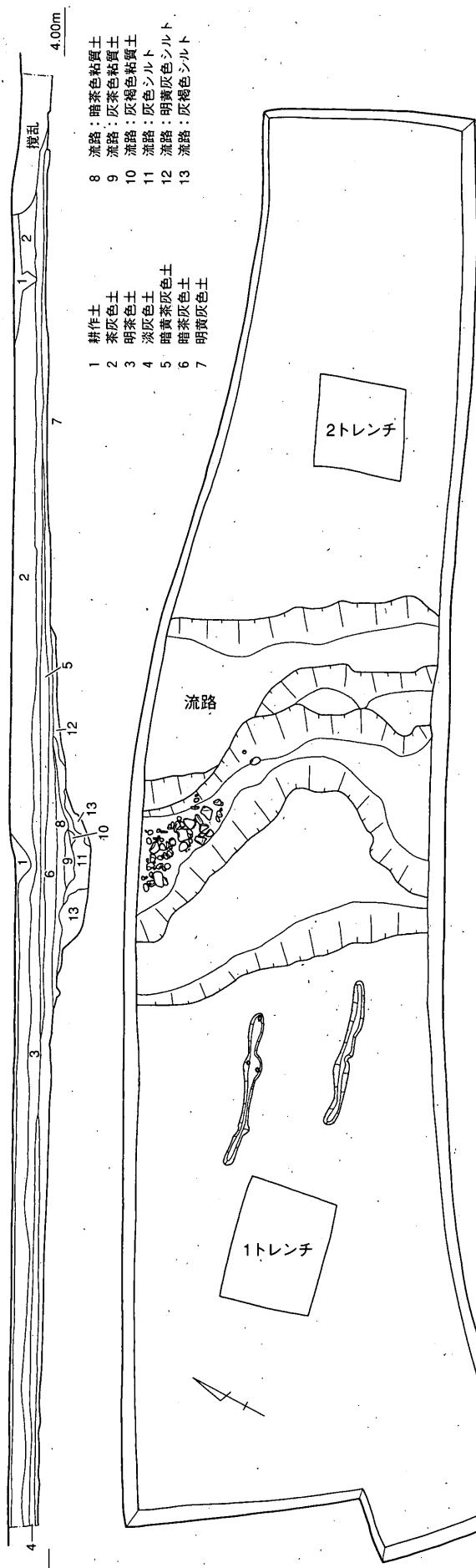
第2章 遺跡の位置および周辺の環境

馬川北遺跡は、阪南市の東端部をほぼ南北に流れる男里川の左岸に拡がり、現在の海岸線まで約500mの場所に位置する。

当教育委員会では、1987(昭和62)～1988(昭和63)年度に阪南町(当時)内の埋蔵文化財分布調査を実施したが、その際には、遺物の散布がほとんど確認されていなかった。一方、本遺跡の南側には、その埋蔵文化財分布調査で周知された馬川遺跡が拡がる。馬川遺跡では、1988(昭和63)年以降の発掘調査で、遺跡の西部の段丘上において古代末期～中世期の瓦や中世期の蛸壺焼成遺構、近世期の墓地と思われる遺構が確認されている。東部の段丘下においては弥生時代～奈良時代にかけての遺物が出土している。また、馬川北遺跡の北側には1992(平成4)年に発見周知された尾崎清水遺跡が拡がる。この遺跡は、これまで大がかりな発掘調査が実施されたことがなく、その性格は明らかではないが、下水道工事に伴う調査では中世期の遺物が確認されている。

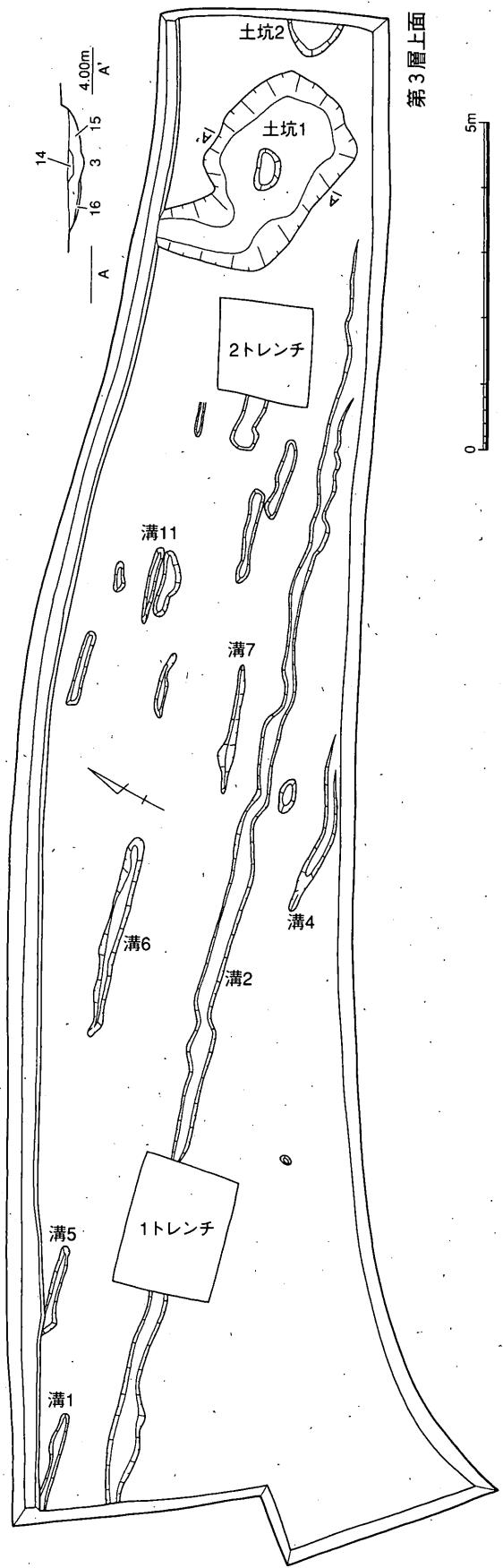


第4図 トレンチ位置図



第7層上面

14 土坑1 : 茶灰色土 (白黄色土混)
15 土坑1 : 茶灰色土 (淡黄色土混)
16 土坑1 : 淡黄色土



第3層上面

第5図 Aトレンチ 平面図・断面図

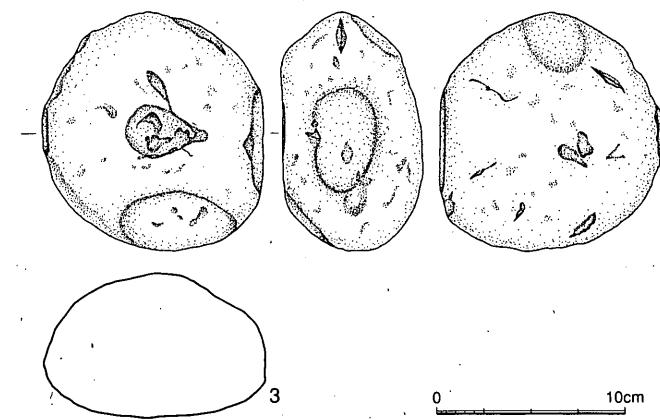
第3章 調査の概要

調査は掘削した土砂を仮置きする都合上、約55mの調査区を2地区に分けて行った。この2地区の西側部分をAトレンチ、東側部分をBトレンチとした。

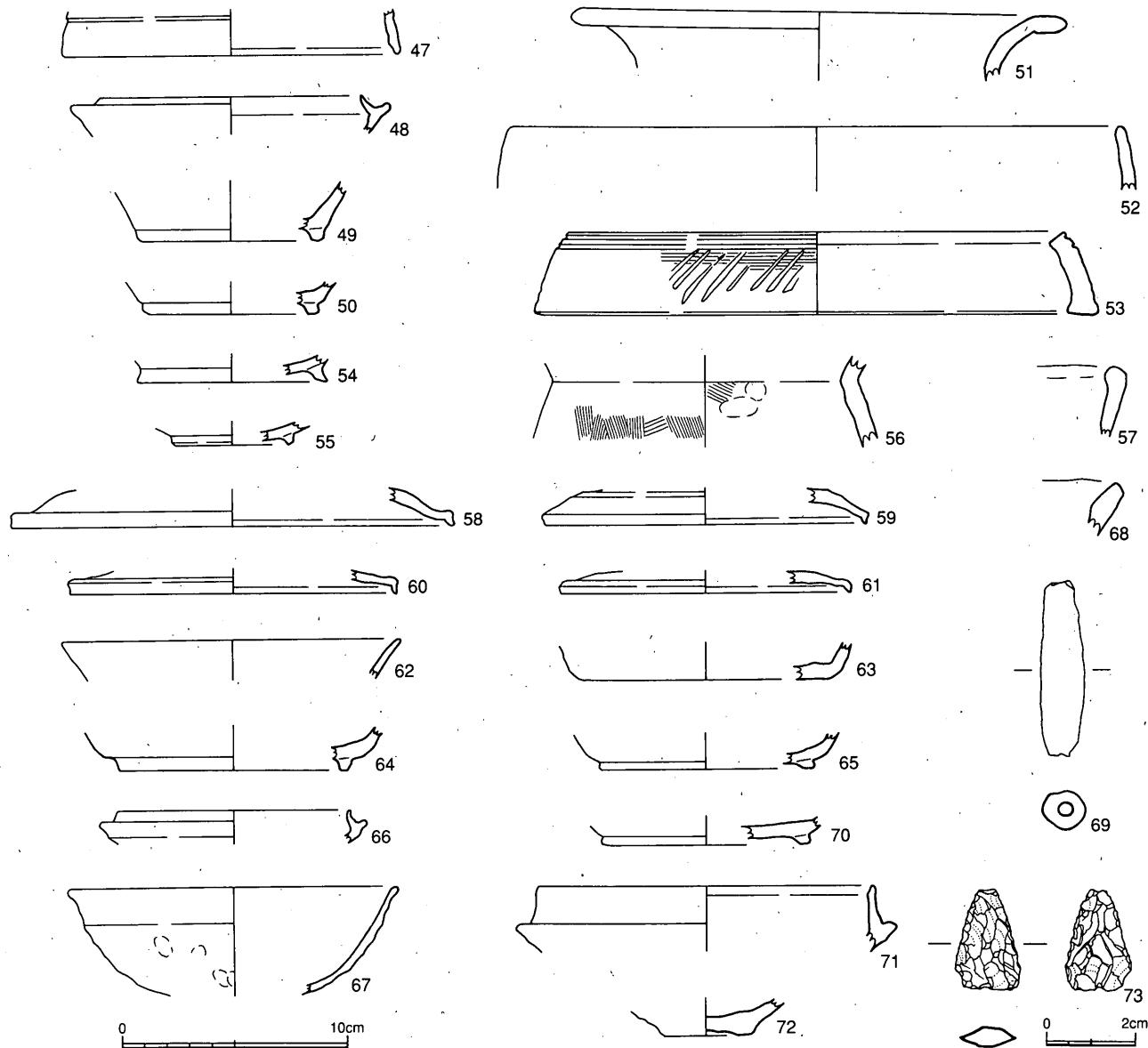
Aトレンチ（第5～10図）

第1層耕作土以下の基本層序は、第2層茶灰色土、第3層明茶色土、第4層淡灰色土、第5層暗黄茶灰色土、第6層暗茶灰色土、第7層明黄灰色土の無遺物層である。

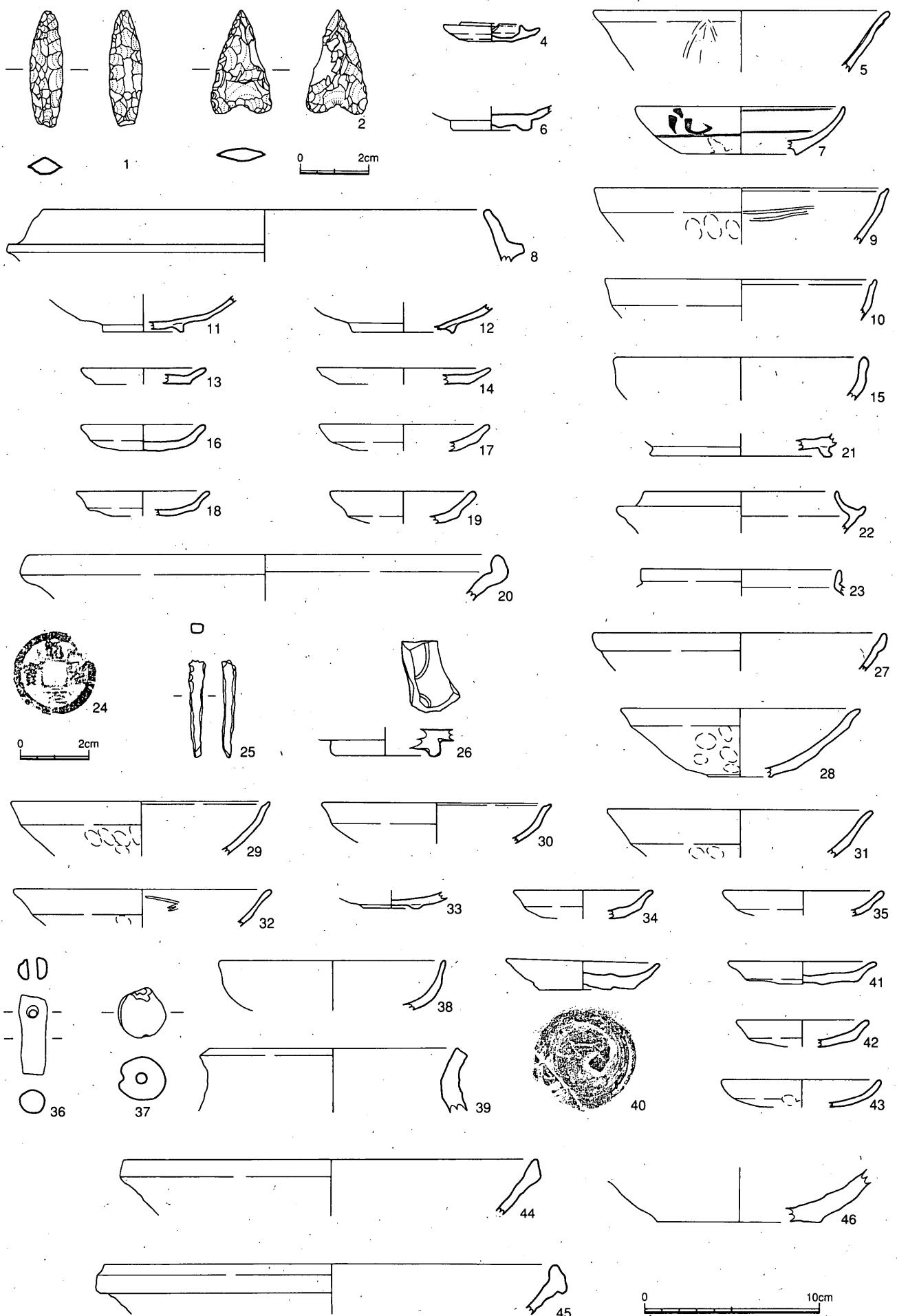
遺物は第2～6層の包含層から石鏸、須恵器、土師器、瓦器、土師質土器、錢貨や輸入陶磁器などが出土した。



第6図 Aトレンチ 包含層 出土遺物 その1



第7図 Aトレンチ 包含層 出土遺物 その3



第8図 Aトレンチ 包含層 出土遺物 その2

第2層は近世期、第3～6層は中世期の包含層である。

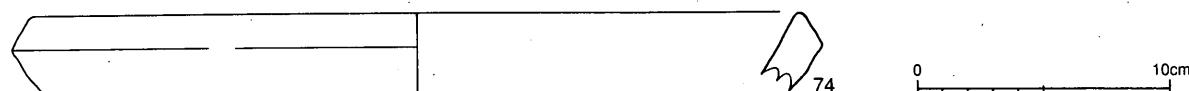
1はサヌカイトの石鎌で第1層から出土した。2はサヌカイトの石鎌、3は和泉砂岩敲石、4は陶器の灯明皿、5は青磁碗、6は白磁碗、7は青花皿、8は瓦質土器羽釜、9～14は瓦器で9～12は碗、13・14は小皿、15は土師器の坏。16～19は土師質土器の小皿、20は須恵質土器で東播系の捏鉢、21～23は須恵器で、21・22は坏身、23は短頸壺である。第2層から出土した。24は銅錢で紹熙元宝(初鑄は1190年。南宋錢)である。25は鉄釘、26は青磁碗、27は白磁碗、28～35は瓦器で28～33は碗、34・35は小皿、36・37は土師質の有孔土錐と管状土錐、38は土師器の坏。39は土師質真蛸壺、40～43は土師質土器の小皿である。44～46は須恵質土器で東播系の捏鉢、47～53は須恵器で、47は坏蓋、48～50は坏身、51は壺、52は鉢、53は器台である。第3層から出土した。54は黒色土器碗、55は瓦器碗、56は土師器甕、57は製塩土器、58～66は須恵器で58～61は坏蓋、62～66は坏身である。第4層から出土した。67は瓦器碗、68は製塩土器、69は土師質管状土錐、70・71は須恵器の坏身、72は弥生土器の甕、73はサヌカイトの石鎌である。第6層から出土した。

第3層及び第7層上面で遺構確認を行った。第3層上面で十数条の鋤溝と土坑を、第7層上面で流路と溝を検出した。

土坑1(第5・9図)

第3層上面で検出した、東西3.10m、南北1.93m以上、深さ0.24mの不定形土坑である。埋土は第1層茶灰色土(白黄色土混)、第2層茶灰色土(淡黄褐色土混)、第3層淡黄灰色土である。

遺物は第1層からサヌカイト、土師器、須恵器、瓦器、瓦質土器、陶器、磁器、蛸壺、瓦が、第2層から土師質土器、製塩土器、黒色土器が出土したが、近世期の遺構と思われる。74は瓦質土器の擂鉢で第1層から出土した。



第9図 Aトレンチ 土坑1 出土遺物

土坑2(第5図)

東西0.60m以上、南北0.85m以上、深さ0.06mの土坑で、埋土は第2層茶灰色土である。遺物は出土しなかった。

鋤溝群(第5図)

第3層上面で東西方向の小溝を十数条検出した。長さ0.46～20.00m以上で、幅0.10～0.44mである。第7層上面の西側で検出された溝も鋤溝と思われるが、これについては埋土などの状況から第3層上面で検出された鋤溝と同時期のものとも考えられる。

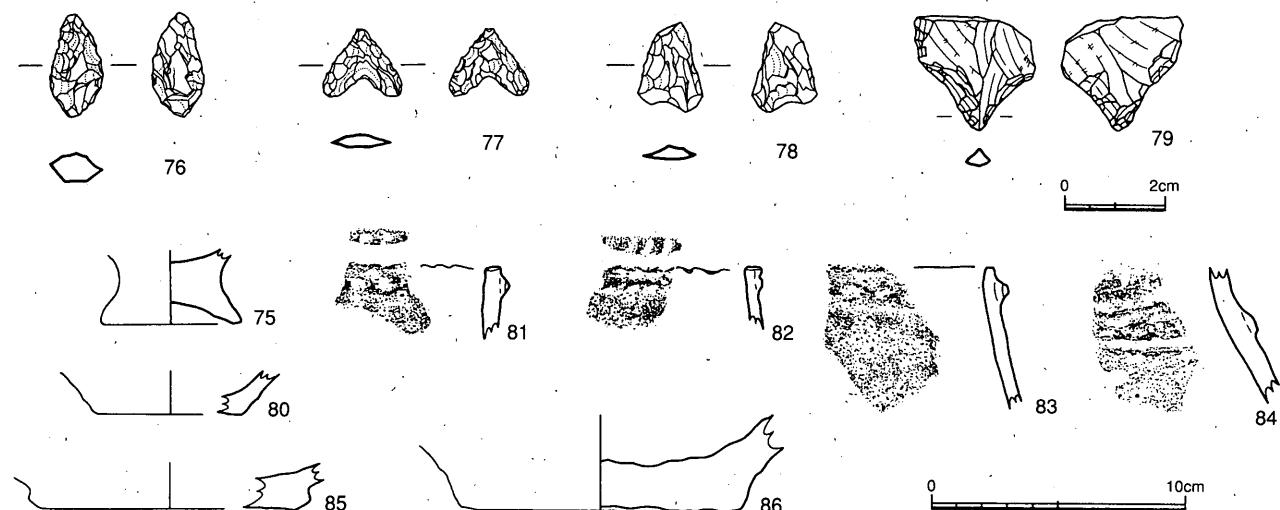
遺物は溝1から土師器、須恵器、瓦質土器、溝2から土師器、須恵器、瓦器、白磁、蛸壺、製塩土器、溝4から土師器、須恵器、黒色土器、瓦器、溝5と溝6から土師器、瓦器が、溝7と溝11から土師器が出土した。図化できるものはなかった。出土遺物から中世期の遺構と思われる。

流路（第5・10図）

第7層上面で検出した。幅6.30m、長さ4.80m以上、深さ0.60mで、埋土は第1層暗茶色粘質土、第2層灰茶色粘質土、第3層灰褐色粘質土、第4層灰色シルト、第5層明黄灰色シルト、第6層灰褐色シルトである。

遺物は第1層からサヌカイト、縄文土器、弥生土器、土師器、製塩土器、第2層からサヌカイト、縄文土器、弥生土器、第3層から縄文土器、片岩、第4層からサヌカイト、縄文土器、弥生土器、第6層からサヌカイト、石器、縄文土器、弥生土器が出土した。第1層は奈良時代、第2層以下は縄文～弥生時代の包含層である。図化し得たのは以下のとおりである。

75は弥生時代後期の製塩土器、76～79はサヌカイトの石器で、76～78は石鏸、79は石錐である。80は弥生時代後期の壺、81～86は縄文時代晚期の凸帯文系土器で、81～85は深鉢、86は壺である。75は第1層、76は第4層、その他は第6層から出土した。



第10図 Aトレンチ 流路 出土遺物

Bトレーニチ（第11～13図）

Bトレーニチの第1層耕作土以下の基本層序は第2層灰褐色土、第3層灰色土、第4層淡茶灰色土、第5層黄灰色粘質土、第6層黄灰色シルト、第7層茶灰色シルト、第8層暗茶灰色シルト、第9層黄灰色土である。

第1層は近世期、第2～5層は中世期の包含層である。

遺物は第1層及び第3～5層で土師器、須恵器、瓦器、白土器が出土した。以上に加え第1層から弥生土器、須恵質土器、土師質土器、瓦質土器、輸入陶磁器、陶器、製塙土器、蛸壺、土錘、瓦、鉄製品、第3層から土師質土器、瓦質土器、輸入陶磁器、蛸壺、土錘、莎入り焼土、第4層から土師質土器、蛸壺、瓦、莎入り焼土、第5層から須恵質土器、莎入り焼土が出土した。第6～8層は遺物が出土していない為、時代は不明である。

図化し得たものは以下のとおりである。87は鉄製の鎌と思われる。88は瓦器小皿、89は白土器皿、90は須恵器の短頸壺、91は弥生時代後期の甕で第1層から出土した。92は白磁碗、93は白土器皿、94は土師質土器小皿、95・96は土師質真蛸壺、97は土師質管状土錘で第3層から出土した。98は白土器の皿、99は須恵質土器で東播系の捏鉢。第5層から出土した。

土坑1（第11図）

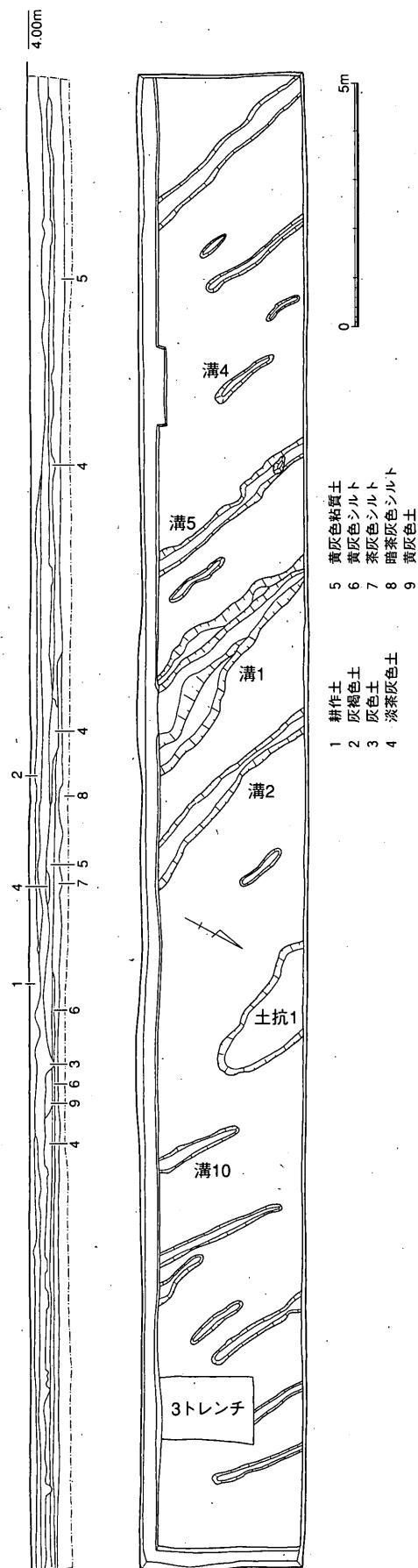
第4層上面で検出した、東西2.35m以上、南北1.25m、深さ0.08mの不定形土坑である。埋土は第3層灰色土である。

遺物は須恵器、白土器、蛸壺が出土した。

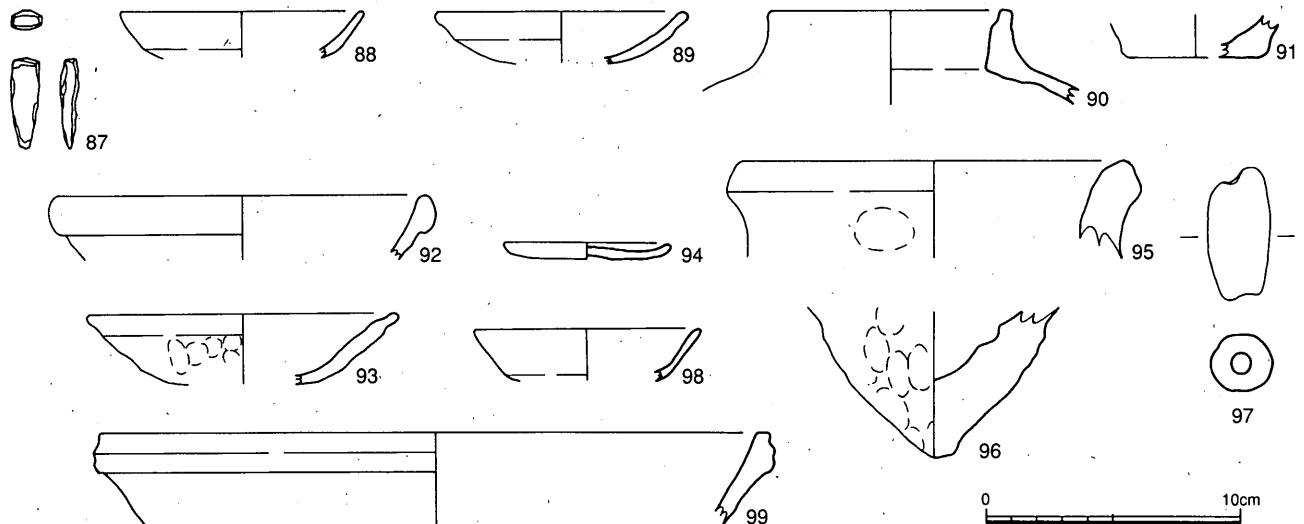
溝1（第11・13図）

第5層上面で検出した、長さ4.50m以上、幅1.54m、深さ0.10mの溝である。埋土は第4層淡茶灰色土である。区画溝と思われる。

遺物は土師器、須恵器、瓦器、白土器が出土した。100は白土器の皿である。



第11図 Bトレーニチ 平面図・断面図

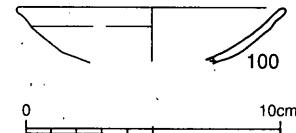


第12図 Bトレンチ 包含層 出土遺物

溝2（第11図）

第5層上面で検出した、長さ4.29m以上、幅0.57m、深さ0.08mの溝である。埋土は第4層淡茶灰色土である。

遺物は出土しなかった。溝1同様、区画溝と思われる。



第13図 Bトレンチ 溝1 出土遺物

鋤溝群

第4層上面で東西方向の小溝を十数条検出した。長さ0.7~4.50m以上、幅0.15~1.54mで、埋土は第3層灰色土である。

遺物は溝4から土師質土器、溝5から瓦器、白土器、蛸壺、瓦、溝10からサヌカイト、土師器が出土した。

Aトレンチの第3層上面で確認された溝とBトレンチの溝は、その幅がいずれも20~40cm程度のため鋤溝と思われる。しかし、検出面や方向に差があるため、すべてが同一時期のものとは考えがたい。

第4章 まとめ

以上のように調査報告を行ったが、ここでは特徴的な点をあげて、まとめにかえたい。

本調査における特徴としては、縄文土器の出土とそれを伴う流路の検出があげられよう。縄文土器は、調査が行われた1990(平成2)年時点では、本市内における発掘調査での初めての出土となった。出土した縄文土器は凸帯文系で、晩期後葉の滋賀里IV式のものであった。

これ以後、1996(平成8)～1998(平成10)年に(財)大阪府文化財調査研究センターにより実施された向出遺跡における調査では、後期中葉の北白川上層期から後葉の宮滝期を中心として、晩期後葉の船橋期にかけての土坑墓群が検出された。本報告の馬川北遺跡は男里川河口付近の左岸に位置するが、この向出遺跡も同じ男里川水系の上流にある山中川と菟谷川に挟まれた段丘上に位置している。この調査では、段丘上の約5600m²の調査地区から数百の土坑墓とともに大量の縄文土器が出土している。一方、今回の馬川北遺跡の遺構は流路であり、同じ流路内から弥生土器も出土していることから、この流路は縄文期とは考えがたい。また、調査地点が男里川の段丘上ではなく、近年付近において実施された他の調査から、この付近がドライになり耕地化されるのは、中世期以降のことと考えられている。中世期以前については、低湿地で、地盤が不安定であったと想定される。

これらのことから勘案すると、今回の調査で出土した土器については、個体そのものの状態もかなり磨耗しており、付近に縄文期の生活跡が存在する可能性よりも、上方からの流れ込みである可能性が高いと思われる。

しかし、男里川の対岸にあたる泉南市男里遺跡からは、本遺跡と同時期の縄文土器が出土しており、生活跡の存在の可能性も否定しがたい。なお、上述した(財)大阪府文化財調査研究センターの向出遺跡調査報告書では、この馬川北遺跡と男里遺跡の両遺跡が別であるか否か、さらに向出遺跡と馬川北遺跡の関連についての指摘もなされている。

本遺跡周辺では、調査から15年を経ているが、1990(平成2)年以降面的な調査はほとんど行われておらず、縄文時代の状況把握についても、進展していない。

本遺跡の状況は、男里遺跡、向出遺跡との関連を含め、今後の周辺調査に期待したい。

遺物観察表

挿図番号 遺物番号	出土地点 層位	種類器種	法量 (cm)	手 法	胎 土	焼成	色 調	備 考
第7図 1	Aトレンチ 耕作土	サヌカイト 石鏸	縦 横 厚さ 3.3 1.0 0.5	尖基鏸				基部欠損
タ 2	Aトレンチ 茶灰色土	サヌカイト 石鏸	縦 横 厚さ 3.0 1.8 0.4	四基無茎鏸				ほぼ完型
第6図 3	Aトレンチ 茶灰色土	和泉砂岩 敲石	縦 横 厚 12.5 11.7 7.5	自然石				
第7図 4	Aトレンチ 茶灰色土	陶器 灯明皿	口径 器高 3.6 1.1	外面 口縁部 横ナデ 底 部 回転ヘラ削り 露胎 内面 施 紗 軸 口縁部 露胎	密	良好	外 紬:緑味黄灰色 露:淡灰色 内 紬:緑味黄灰色 断:淡灰色	
タ 5	Aトレンチ 茶灰色土	青磁 椀	口径 器高 17.0 3.5	外面 施 紗 軸 体 部 ヘラ彫り蓮華文 内面 施 紗 軸	密	良好	外 紬:淡緑灰色 内 紬:「」 断:灰白色	貫入有り
タ 6	Aトレンチ 茶灰色土	白磁 椀	器高 底径 1.3 4.6	外面 回転ヘラ削り 露胎 内面 施 紗 見込み 蛇ノ目釉ハギ	密	良好	外 露:灰白色 内 紬:淡灰色 断:灰白色	
タ 7	Aトレンチ 茶灰色土	青花 皿	口径 器高 12.0 2.7	外面 施 紗 軸 高台部 基筒底 内面 施 紗	密	良好	外 紬:淡灰色 染:うす藍色 露:淡橙色 内 紬:淡灰色 染:うす藍色 断:白色	
タ 8	Aトレンチ 茶灰色土	瓦質土器 羽釜	口径 器高 25.6 2.9	外面 口縁部 横ナデ 錆 下 ヘラ削り 内面 摩滅の為調整不明	やや粗(0.5~1mm 大の小石多く含む)	良好	外 灰黄色 内 「」 断 乳茶色 錆部分 灰黑色	
タ 9	Aトレンチ 茶灰色土	瓦器 椀	口径 器高 16.7 3.1	外面 口縁部 横ナデ 体 部 指オサエ 内面 口縁部 沈線 体 部 ヘラミガキ	密	良好	外 黄灰白色 内 乳白濁色 断 黄灰白色	
タ 10	Aトレンチ 茶灰色土	瓦器 椀	口径 器高 15.4 2.2	外面 摩滅の為調整不明 内面 口縁部 沈線	密	良好	外 黒灰色 内 灰黒色 断 黄茶色	
タ 11	Aトレンチ 茶灰色土	瓦器 椀	器高 底部 2.0 4.6	外面 体 部 指オサエ 高台部 貼り付け後横ナデ 内面 見込み ヘラミガキ	密	良好	外 黄黒色 内 黑色 断 灰白色	
タ 12	Aトレンチ 茶灰色土	瓦器 椀	器高 底径 1.6 5.8	外面 体 部 摩滅の為調整不明 高台部 貼り付け後横ナデ 内面 摩滅の為調整不明	密	良好	外 黑黄茶色 内 淡茶灰色 断 淡茶色	
タ 13	Aトレンチ 茶灰色土	瓦器 小皿	口径 器高 7.2 0.9	外面 摩滅の為調整不明 内面 「」	密(1~2mm大の 砂粒少し含む)	良好	外 黄褐色 内 「」 断 「」	
タ 14	Aトレンチ 茶灰色土	瓦器 小皿	口径 器高 10.0 0.9	外面 摩滅の為調整不明 内面 「」	密	良好	外 濃灰色 内 灰色 断 白灰色	
タ 15	Aトレンチ 茶灰色土	土師器 壺	口径 器高 14.6 2.5	外面 摩滅の為調整不明 内面 「」	密	良好	外 淡茶灰色 内 淡灰茶白色 断 明茶白色	
タ 16	Aトレンチ 茶灰色土	土師質土器 小皿	口径 器高 7.2 1.5	外面 口縁部 横ナデ 底 部 指オサエ 内面 摩滅の為調整不明	密	良好	外 淡赤灰色 内 暗茶灰色 断 赤灰色	
タ 17	Aトレンチ 茶灰色土	土師質土器 小皿	口径 器高 9.8 1.5	外面 摩滅の為調整不明 内面 「」	密	良好	外 乳白色 内 「」 断 「」	内面に付着物 有り
タ 18	Aトレンチ 茶灰色土	土師質土器 小皿	口径 器高 7.6 1.4	外面 口縁部 横ナデ 底 部 指オサエ 内面 摩滅の為調整不明	密(4mm大の石 含む)	良好	外 淡赤灰色 内 明茶白色 断 明茶色	
タ 19	Aトレンチ 茶灰色土	土師質土器 小皿	口径 器高 8.4 1.8	外面 口縁部 横ナデ 底 部 ナデ 内面 横ナデ	密(0.5~1mmの 砂粒含む)	良好	外 橙色 内 橙白色 断 暗灰色	
タ 20	Aトレンチ 茶灰色土	須恵質土器 捏鉢	口径 器高 28.0 2.5	外面 横ナデ 内面 「」	密	良好	外 灰色 内 「」 断 「」	東播系 外面口縁部 自然釉
タ 21	Aトレンチ 茶灰色土	須恵器 壺身	器高 底径 1.3 10.4	外面 高台部 貼り付け後横ナデ 内面 横ナデ	密	良好	外 灰色 内 「」 断 「」	
タ 22	Aトレンチ 茶灰色土	須恵器 壺身	口径 器高 11.2 2.4	外面 横ナデ 内面 「」	密(0.1~0.5mm台 の砂粒含む)	良好	外 灰色 内 「」 断 「」	

挿図番号 遺物番号	出土地点 層位	種類 器種	法量 (cm)	手 法	胎 土	焼成	色 調	備 考
第7図 23	Aトレンチ 茶灰色土	須恵器 短頸壺	口径 器高 11.4 1.5	外面 横ナデ 内面 ツ	密(細砂粒含む)	良好	外 灰色 内 ツ 断 暗茶灰色	
24	Aトレンチ 明茶色土	銅錢 紹熙元宝	外径 穴幅 2.3 0.7					初鑄年代南宋・紹熙元年(1190)
25	Aトレンチ 明茶色土	鉄製 釘	長さ 幅 厚さ 5.5 1.0 0.8					
26	Aトレンチ 明茶色土	青磁 椀	器高 底径 1.5 6.4	外面 施釉 内面 施釉 畠付け 釉ふき取り	密	良好	外 釉:灰緑色 内 釉:ツ 断 灰白色	貢入有り
27	Aトレンチ 明茶色土	白磁 椀	口径 器高 16.8 2.1	外面 施釉 内面 ツ	密(1mm大の砂粒 含む)	良好	外 釉:灰白色 内 釉:ツ 断 ツ	
28	Aトレンチ 明茶色土	瓦器 椀	口径 器高 13.6 3.9 底径 3.6	外面 口縁部 横ナデ 体部 指オサエ 内面 摩滅の為調整不明	密	良好	外 黒灰色 内 淡茶色 断 淡茶色	
29	Aトレンチ 明茶色土	瓦器 椀	口径 器高 14.8 3.1	外面 口縁部 横ナデ 体部 指オサエ 口縁部 沈線 内面 摩滅の為調整不明	密	良好	外 黒灰色 内 灰白色 断 白濁色	
30	Aトレンチ 明茶色土	瓦器 椀	口径 器高 13.2 2.3	外面 横ナデ 内面 口縁部 沈線	密	良好	外 黒灰色 内 ツ 断 乳白色	
31	Aトレンチ 明茶色土	瓦器 椀	口径 器高 15.2 2.7	外面 口縁部 横ナデ 体部 指オサエ 内面 摩滅の為調整不明	密(0.5~2.5mm大 の小石含む)	良好	外 灰茶色 内 淡茶色 断 ツ	
32	Aトレンチ 明茶色土	瓦器 椀	口径 器高 14.8 2.1	外面 口縁部 横ナデ 体部 指オサエ 内面 ヘラミガキ	密(0.5mm大の砂 粒含む)	良好	外 灰色 内 ツ 断 白灰色	
33	Aトレンチ 明茶色土	瓦器 椀	器高 底径 1.0 3.0	外面 体部 摩滅の為調整不明 高台部 貼り付け後横ナデ 内面 摩滅の為調整不明	密(砂粒やや含む)	良好	外 黄茶色 内 黑灰色 断 乳黄色	
34	Aトレンチ 明茶色土	瓦器 小皿	口径 器高 8.0 1.6	外面 摩滅の為調整不明 内面 ツ	密(細砂粒含む)	良好	外 黄黒色 内 灰白色 断 ツ	
35	Aトレンチ 明茶色土	瓦器 小皿	口径 器高 9.2 1.4	外面 摩滅の為調整不明 内面 ツ	密	良好	外 黒色 内 ツ 断 茶白色	
36	Aトレンチ 明茶色土	土師質 有孔土錐	長さ 幅 孔径 4.5 1.3 0.5	手づくね	密		外 茶橙色 断 ツ	
37	Aトレンチ 明茶色土	土師質 管状土錐	長さ 幅 孔径 2.8 2.7 0.7	手づくね	密(細砂粒含む)	良好	外 橙白色 断 橙色	側面に溝有り
38	Aトレンチ 明茶色土	土師器 坏	口径 器高 13.0 2.8	外面 摩滅の為調整不明 内面 ツ	密	良好	外 淡黄茶色 内 乳白色 断 黄茶色	
39	Aトレンチ 明茶色土	土師質 真蛸壺	口径 器高 15.3 3.7	外面 摩滅の為調整不明 内面 ツ	密(細砂粒含む)	良好	外 淡茶白色 内 ツ 断 ツ	
40	Aトレンチ 明茶色土	土師質土器 小皿	口径 底径 器高 8.8 5.7 1.8	外面 口縁部 横ナデ 底部 糸切り 内面 摩滅の為調整不明	密(0.2~1mm大 の砂粒含む)	良好	外 橙白色 内 ツ 断 ツ	
41	Aトレンチ 明茶色土	土師質土器 小皿	口径 器高 底径 8.5 1.3 6.6	外面 摩滅の為調整不明 内面 ツ	密(細砂粒含む)	良好	外 淡茶白色 内 ツ 断 ツ	
42	Aトレンチ 明茶色土	土師質土器 小皿	口径 器高 7.6 1.5	外面 摩滅の為調整不明 内面 ツ	密	良好	外 淡橙白色 内 ツ 断 ツ	
43	Aトレンチ 明茶色土	土師質土器 小皿	口径 器高 9.2 1.6	外面 口縁部 横ナデ 底部 指オサエ 口縁部 横ナデ 見込み ナデ	密(やや細砂粒 含む)	良好	外 淡灰黄茶色 内 淡灰色 断 ツ	
44	Aトレンチ 明茶色土	須恵質土器 捏鉢	口径 器高 23.8 3.2	外面 横ナデ 内面 ツ	密	良好	外 灰色 内 ツ 断 ツ	東播系 外面口縁部 自然釉
45	Aトレンチ 明茶色土	須恵質土器 捏鉢	口径 器高 26.2 2.8	外面 横ナデ 内面 ツ	密(0.5~2mmの 砂粒含む)	良好	外 灰色 内 ツ 断 ツ	東播系

挿図番号 遺物番号	出土地点 層位	種類 器種	法量 (cm)	手 法	胎 土	焼成	色 調	備 考
第7図 46	Aトレンチ 明茶色土	須恵質土器 捏鉢	器高 底径 3.1 9.2	外面 体部 横ナデ 底部 ヘラ切り 内面 横ナデ	密(細砂粒含む)	良好	外 灰色 内 ハ 断 ハ	東播系
第8図 47	Aトレンチ 明茶色土	須恵器 坏蓋	口径 器高 15.0 2.0	外面 横ナデ 内面 ハ	密	良好	外 暗灰色 内 ハ 断 暗茶灰色	
48	Aトレンチ 明茶色土	須恵器 坏身	口径 器高 11.8 1.7	外面 横ナデ 内面 ハ	密	良好	外 灰黄色 内 灰色 断 暗灰色	
49	Aトレンチ 明茶色土	須恵器 坏身	器高 底径 2.6 8.2	外面 体部 横ナデ 高台部 貼り付け後横ナデ 内面 横ナデ	密(細砂粒含む)	良好	外 暗灰白色 内 灰色 断 ハ	
50	Aトレンチ 明茶色土	須恵器 坏身	器高 底径 1.4 7.8	外面 体部 横ナデ 高台部 貼り付け後横ナデ 内面 横ナデ	密(細砂粒含む)	良好	外 暗灰色 内 ハ 断 ハ	
51	Aトレンチ 明茶色土	須恵器 壺	口径 器高 21.9 2.9	外面 横ナデ 内面 ハ	やや粗(0.2~2mm 大の砂粒含む)	良好	外 灰色 内 ハ 断 暗灰色	
52	Aトレンチ 明茶色土	須恵器 鉢	口径 器高 27.4 2.8	外面 横ナデ 内面 ハ	密	良好	外 暗灰色 内 暗青灰色 断 暗茶灰色	
53	Aトレンチ 明茶色土	須恵器 器台	器高 底径 3.6 25.0	外面 カキ目 ヘラ描き文 内面 横ナデ	密(細砂粒含む)	良好	外 灰色 内 ハ 断 ハ	
54	Aトレンチ 淡灰色土	黑色土器 椀	器高 高台径 1.2 8.4	外面 高台部 貼り付け後横ナデ 内面 摩滅の為調整不明	密	良好	外 橙白色 内 黒色 断 暗茶色	
55	Aトレンチ 淡灰色土	瓦器 椀	器高 高台径 1.0 5.4	外面 摩滅の為調整不明 高台部 貼り付け後横ナデ 内面 摩滅の為調整不明	密	良好	外 黑黄灰色 内 黑黄色 断 黄茶色	
56	Aトレンチ 淡灰色土	土師器 甕	頸部径 器高 13.4 4.0	外面 体部 ハケ目 内面 頸部 指オサエ 体部 ハケ後ナデ	密(細砂粒含む)	良好	外 暗茶灰色 内 ハ 断 橙茶色	
57	Aトレンチ 淡灰色土	製塙土器	器高 3.1	外面 摩滅の為調整不明 内面 ハ	密(砂粒含む)	良	外 淡橙色 内 ハ 断 ハ	
58	Aトレンチ 淡灰色土	須恵器 坏蓋	口径 器高 19.6 1.8	外面 横ナデ 内面 ハ	密(1mm大の砂 粒含む)	良好	外 暗灰色 内 ハ 断 ハ	外面口縁部 自然釉
59	Aトレンチ 淡灰色土	須恵器 坏蓋	口径 器高 14.2 1.6	外面 横ナデ 内面 ハ	密	良好	外 灰色 内 ハ 断 暗茶褐色	外面口縁部 自然釉
60	Aトレンチ 淡灰色土	須恵器 坏蓋	口径 器高 14.4 1.0	外面 横ナデ 内面 ハ	密(細砂粒含む)	良好	外 灰色 内 ハ 断 ハ	
61	Aトレンチ 淡灰色土	須恵器 坏蓋	口径 器高 12.8 1.0	外面 横ナデ 内面 ハ	密(細砂粒含む)	良好	外 灰色 内 ハ 断 ハ	外面口縁部 自然釉
62	Aトレンチ 淡灰色土	須恵器 坏身	口径 器高 15.0 2.8	外面 横ナデ 内面 ハ	密(0.5~1mm大 の砂粒含む)	良好	外 灰色 内 ハ 断 ハ	
63	Aトレンチ 淡灰色土	須恵器 坏身	器高 底径 1.6 11.3	外面 体部 横ナデ 底部 回転ヘラ切り 内面 横ナデ	密(1mm大の砂 粒含む)	良好	外 灰色 内 ハ 断 ハ	
64	Aトレンチ 淡灰色土	須恵器 坏身	器高 底径 1.9 10.1	外面 高台部 貼り付け後横ナデ 内面 横ナデ	密(1mm大の砂 粒含む)	良好	外 灰青色 内 ハ 断 ハ	
65	Aトレンチ 淡灰色土	須恵器 坏身	器高 底径 1.6 9.4	外面 高台部 貼り付け後横ナデ 内面 横ナデ	密	良好	外 暗灰色 内 灰色 断 灰色	
66	Aトレンチ 淡灰色土	須恵器 坏身	口径 器高 10.3 1.5	外面 横ナデ 内面 ハ	密(微砂粒含む)	良好	外 暗灰色 内 灰色 断 ハ	
67	Aトレンチ 暗茶灰色土	瓦器 椀	口径 器高 14.6 4.7	外面 口縁部 横ナデ 体部 指オサエ 内面 横ナデ ヘラミガキ	密(0.5mm大の砂 粒含む)	良好	外 黑灰色 内 黑黄色 断 灰白色	
68	Aトレンチ 暗茶灰色土	製塙土器	器高 2.4	外面 ナデ 内面 ハ	粗(砂粒含む)	良	外 淡橙色 内 ハ 断 淡橙白色	

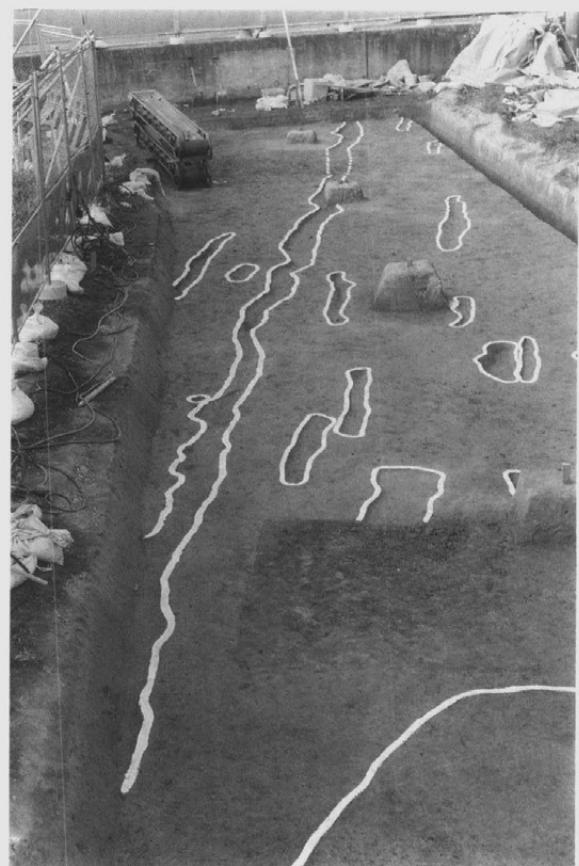
挿図番号 遺物番号	出土地点 層位	種類 器種	法量 (cm)	手法	胎土	焼成	色調	備考
第8図 69	Aトレンチ 暗茶灰色土	土師質 管状土錐	長さ 幅 孔径 7.6 2.0 0.6	手づくね	密	良好	外 淡茶白色 断 黄茶色	
70	Aトレンチ 暗茶灰色土	須恵器 坏身	器高 底径 1.3 9.2	外 面 高台部 貼り付け後横ナデ 底 部 回転ヘラ切り 内 面 横ナデ	密(細砂粒含む)	良好	外 灰色 内 ツ 断 ツ	
71	Aトレンチ 暗茶灰色土	須恵器 坏身	口径 器高 15.0 2.9	外 面 横ナデ 内 面 ツ	密(細砂粒含む)	良好	外 灰色 内 青灰色 断 灰色	
72	Aトレンチ 暗茶灰色土	弥生土器 壺	底径 器高 3.9 1.6	外 面 摩滅の為調整不明 内 面 ツ	やや粗(0.5~5mm 大の砂粒含む)	良好	外 橙白色 内 ツ 断 ツ	
73	Aトレンチ 暗茶灰色土	サヌカイト 石鍼	縦 横 厚さ 2.2 1.5 0.4	凹基無茎鍼				先端・基部 欠損
第9図 74	Aトレンチ 土坑1 茶灰色土 (白黄色土混)	瓦質土器 擂鉢	口径 器高 30.0 3.1	外 面 摩滅の為調整不明 内 面 ツ	やや粗(1~2mm 大の小石含む)	良好	外 灰黑色 内 暗茶色 断 茶白色	
第10図 75	Aトレンチ 流路 暗茶色粘質土	製塩土器	器高 底径 2.9 5.5	外 面 摩滅の為調整不明 内 面 ツ	やや粗(0.5~6mm 大の砂粒含む)	良好	外 橙色 内 ツ 断 ツ	弥生後期 底部に黒斑 有り
76	Aトレンチ 流路 灰色シルト	サヌカイト 石鍼	縦 横 厚さ 2.0 1.1 0.6	尖基鍼				ほぼ完型
77	Aトレンチ 流路 灰褐色シルト	サヌカイト 石鍼	縦 横 厚さ 1.3 1.6 0.2	凹基無茎鍼				ほぼ完型
78	Aトレンチ 流路 灰褐色シルト	サヌカイト 石鍼	縦 横 厚さ 1.8 1.3 0.3	凹基無茎鍼				摩滅著しく 剥離面不明瞭
79	Aトレンチ 流路 灰褐色シルト	サヌカイト 石錐	縦 横 厚さ 2.3 2.4 0.6					
80	Aトレンチ 流路 灰褐色シルト	弥生土器 壺	器高 底径 1.7 6.0	外 面 摩擦の為調整不明 内 面 ツ	密(0.5~2mm 大の小石含む)	良好	外 明黄茶色 内 灰茶色 断 灰色	弥生後期
81	Aトレンチ 流路 灰褐色シルト	繩文土器 深鉢	器高 厚さ 2.9 0.7	口唇部 D字刻 外 面 凸帶部 D字刻 内 面 摩滅の為調整不明	やや粗(金雲母、 砂粒、小石含む)	良好	外 暗茶色 内 黑色 断 黑色	凸帯文 滋賀里IV
82	Aトレンチ 流路 灰褐色シルト	繩文土器 深鉢	厚さ 0.5	口唇部 D字刻 外 面 凸帶部 D字刻 内 面 摩滅の為調整不明	やや粗(金雲母、 砂粒、小石含む)	やや軟	外 暗茶色 内 暗茶黒色 断 暗茶色	凸帯文 滋賀里IV
83	Aトレンチ 流路 灰褐色シルト	繩文土器 深鉢	幅 長さ 厚さ 4.6 5.6 0.6	口唇部 D字刻 外 面 凸帶部 D字刻 内 面 摩滅の為調整不明	やや粗(金雲母、 砂粒、小石含む)	やや軟	外 茶灰色 内 ツ 断 黑灰色	凸帯文 滋賀里IV
84	Aトレンチ 流路 灰褐色シルト	繩文土器 深鉢	厚さ 0.8	凸 帯 ヘラミガキ 内 面 ハケ目	やや粗(砂粒、 小石含む)	やや軟	外 淡茶白色 内 黑灰色 断 灰茶色 剥離部 明黄茶白色	凸帯文 船橋
85	Aトレンチ 流路 灰褐色シルト	繩文土器 深鉢	器高 底径 1.8 9.8	外 面 摩滅の為調整不明 内 面 ツ	やや粗(0.5~2mm 大の砂粒含む)	良好	外 暗茶灰色 内 明茶灰色 断 暗茶色	
86	Aトレンチ 流路 灰褐色シルト	繩文土器 壺	器高 底径 2.8 11.0	外 面 ナデ 内 面 摩滅の為調整不明	やや粗(0.5~3mm 大の砂粒を多量 に含む)	良好	外 橙茶色 内 暗茶色 断 赤灰色	内面に付着物 有り
第12図 87	Bトレンチ 耕作土	鉄製 鎌	長さ 頭部幅 頭部厚 1.0 0.4 3.6					ほぼ完型
88	Bトレンチ 耕作土	瓦器 小皿	口径 器高 9.6 1.8	外 面 摩滅の為調整不明 内 面 ツ	密	良好	外 淡黒灰色 内 黄灰色 断 ツ	
89	Bトレンチ 耕作土	白土器 皿	口径 器高 10.0 2.0	外 面 口縁部 横ナデ 体 部 摩滅の為調整不明 内 面 摩滅の為調整不明	密	良好	外 乳灰白色 内 乳白色 断 黄白色	
90	Bトレンチ 耕作土	須恵器 短頸壺	口径 器高 9.6 3.7	外 面 横ナデ 内 面 ツ	密(細砂粒含む)	良好	外 口縁部黒灰色 内 暗灰色 断 灰色	外面 自然釉
91	Bトレンチ 耕作土	弥生土器 甕	器高 底径 1.6 5.8	外 面 摩滅の為調整不明 内 面 ツ	やや粗(1~3mm 大の小石含む)	良好	外 淡茶灰色 内 淡茶白色 断 黑灰色	弥生後期

挿図番号 遺物番号	出土点 層位	種類 器種	法量 (cm)	手 法	胎 土	焼成	色 調	備 考
第12図 92	Bトレンチ 灰色土	白磁 椀	口径 器高	15.2 2.5 外面 施釉一部露胎 内面 施釉	密	良好	外 釉: 淡緑色 内 ノ 断 灰白色	
〃 93	Bトレンチ 灰色土	白土器 皿	口径 器高	12.2 2.7 外面 指オサエ後ナデ 内面 横ナデ	密	良好	外 淡茶灰白色 内 淡茶白色 断 灰白色	
〃 94	Bトレンチ 灰色土	土師質土器 小皿	口径 器高	6.6 0.6 外面 口縁部 ナデ 底 部 指オサエ 内面 ナデ	密(砂粒含む)	良好	外 橙色 内 ノ 断 ノ	
〃 95	Bトレンチ 灰色土	土師質 真蛸壺	口径 器高	16.2 3.8 外面 口縁部 横ナデ 頸 部 指オサエ 内面 摩滅の為調整不明	密(1~2mm大の 砂粒少し含む4mm 大の小石含む)	良好	外 橙色 内 ノ 断 ノ	
〃 96	Bトレンチ 灰色土	土師質 真蛸壺	器高	5.8 外面 指オサエ 内面 摩滅の為調整不明	密(細砂粒、赤色 酸化土粒2~3mm 大の小石含む)	良好	外 橙白色 内 ノ 断 ノ	
〃 97	Bトレンチ 灰色土	土師質 管状土錘	長さ 幅 孔径	5.2 2.5 0.8 手づくね	密	良好	外 橙色 内 ノ	
〃 98	Bトレンチ 黄灰色粘質土	白土器 皿	口径 器高	8.8 2.0 外面 摩滅の為調整不明 内面 ノ		良好	外 乳黄色 内 ノ 断 ノ	
〃 99	Bトレンチ 黄灰色粘質土	須恵質土器 捏鉢	口径 器高	26.4 3.7 外面 横ナデ 内面 ノ	密(砂粒多く含 む2mm大の小石 含む)	良好	外 灰色 内 ノ 断 ノ	東播系
第13図 100	Bトレンチ 溝1 淡茶灰色土	白土器 皿	口径 器高	10.4 2.2 外面 口縁部 横ナデ 体 部 摩滅の為調整不明 内面 摩滅の為調整不明		良好	外 乳黄色 内 ノ 断 ノ	

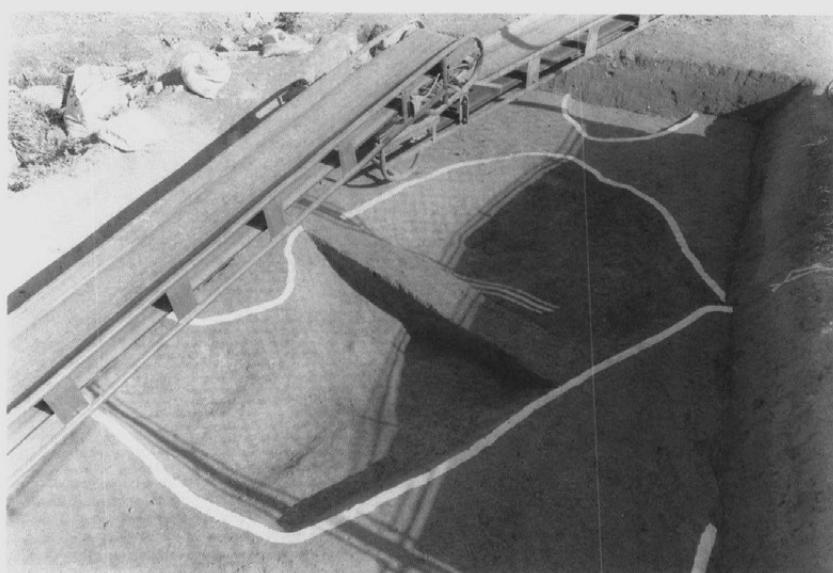
写 真 図 版



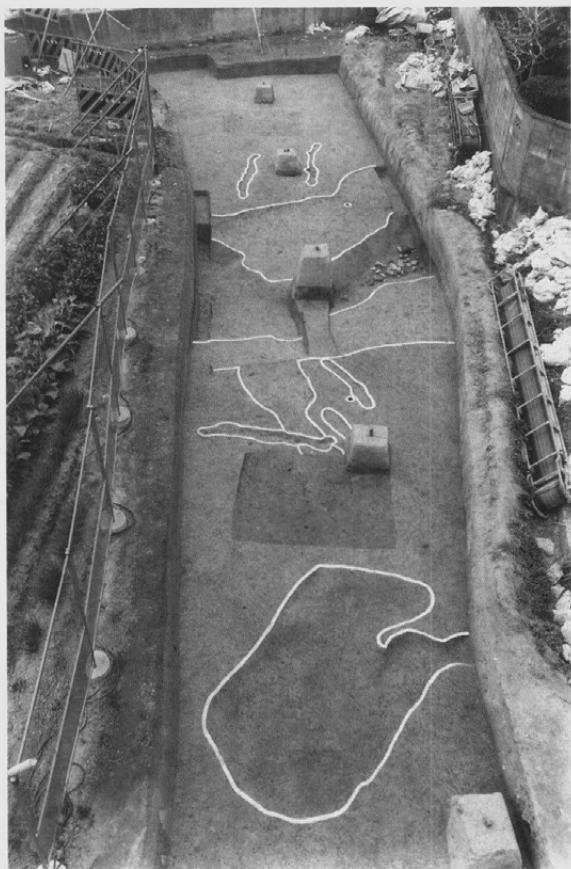
A トレンチ 溝2（西より）



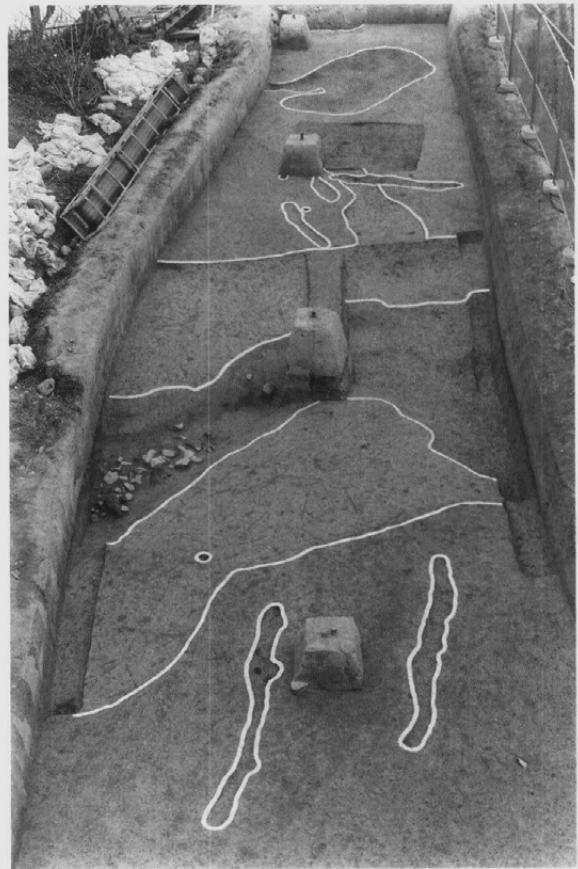
A トレンチ 溝2（東より）



A トレンチ 土坑1（南より）



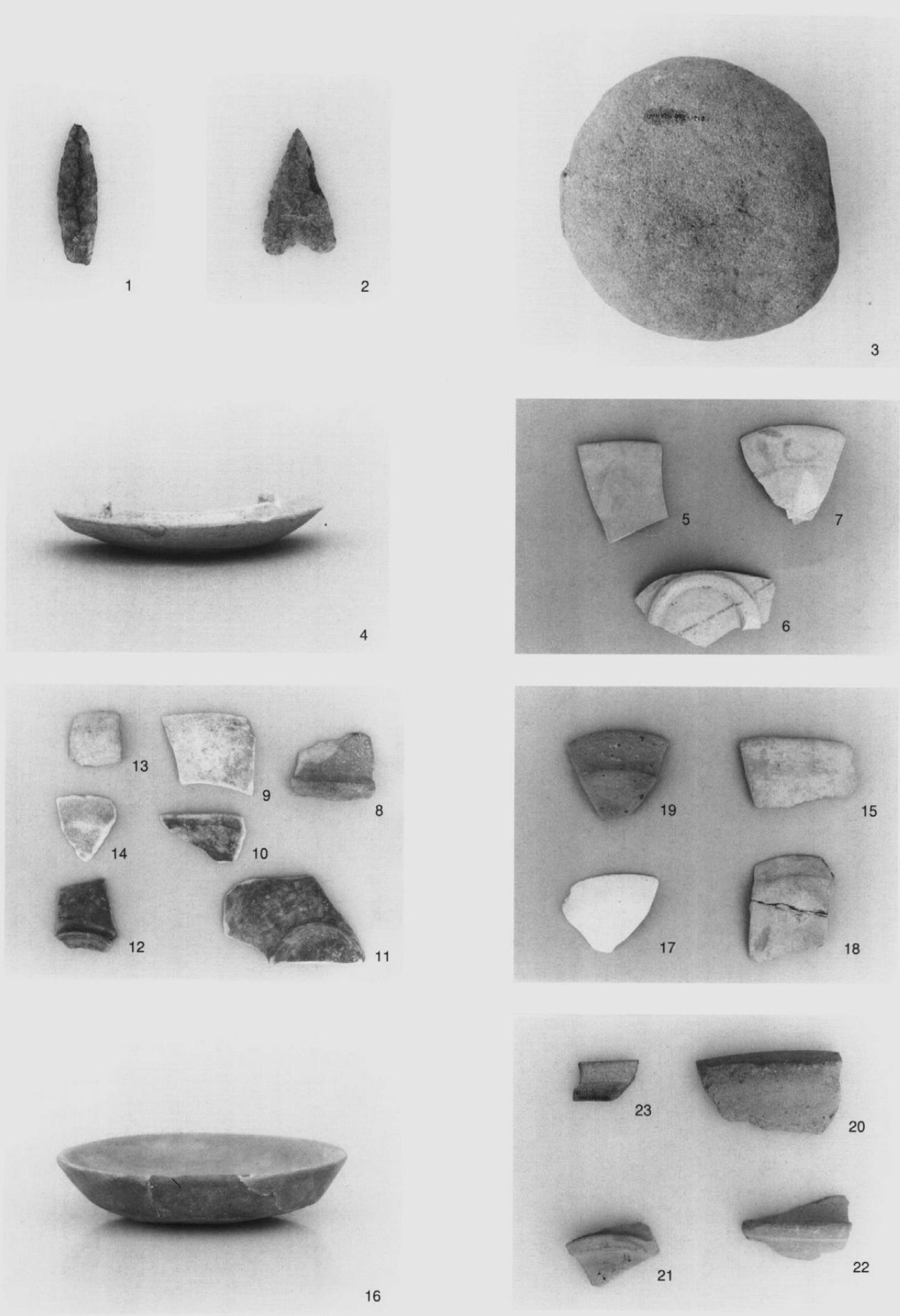
A トレンチ 全景（東より）



A トレンチ 全景（西より）



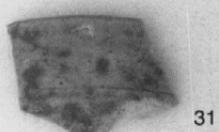
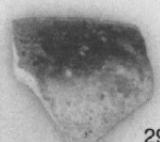
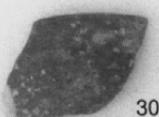
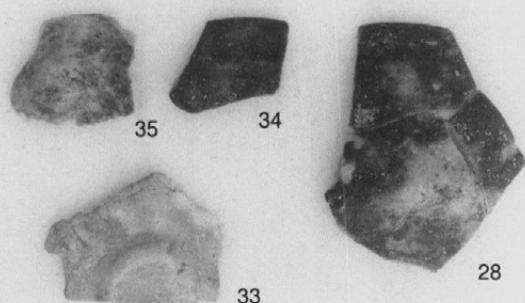
A トレンチ 流路（南より）



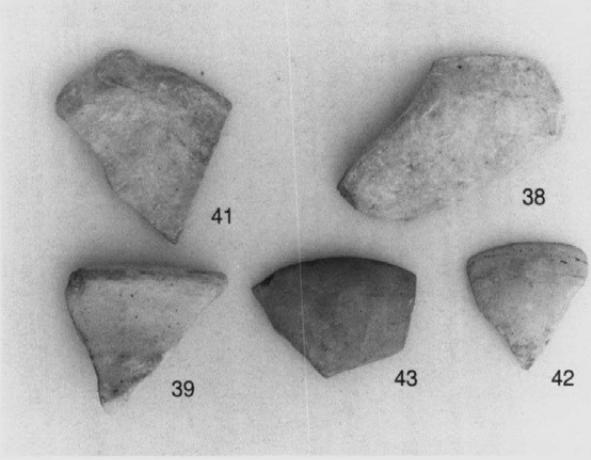
A トレンチ 包含層



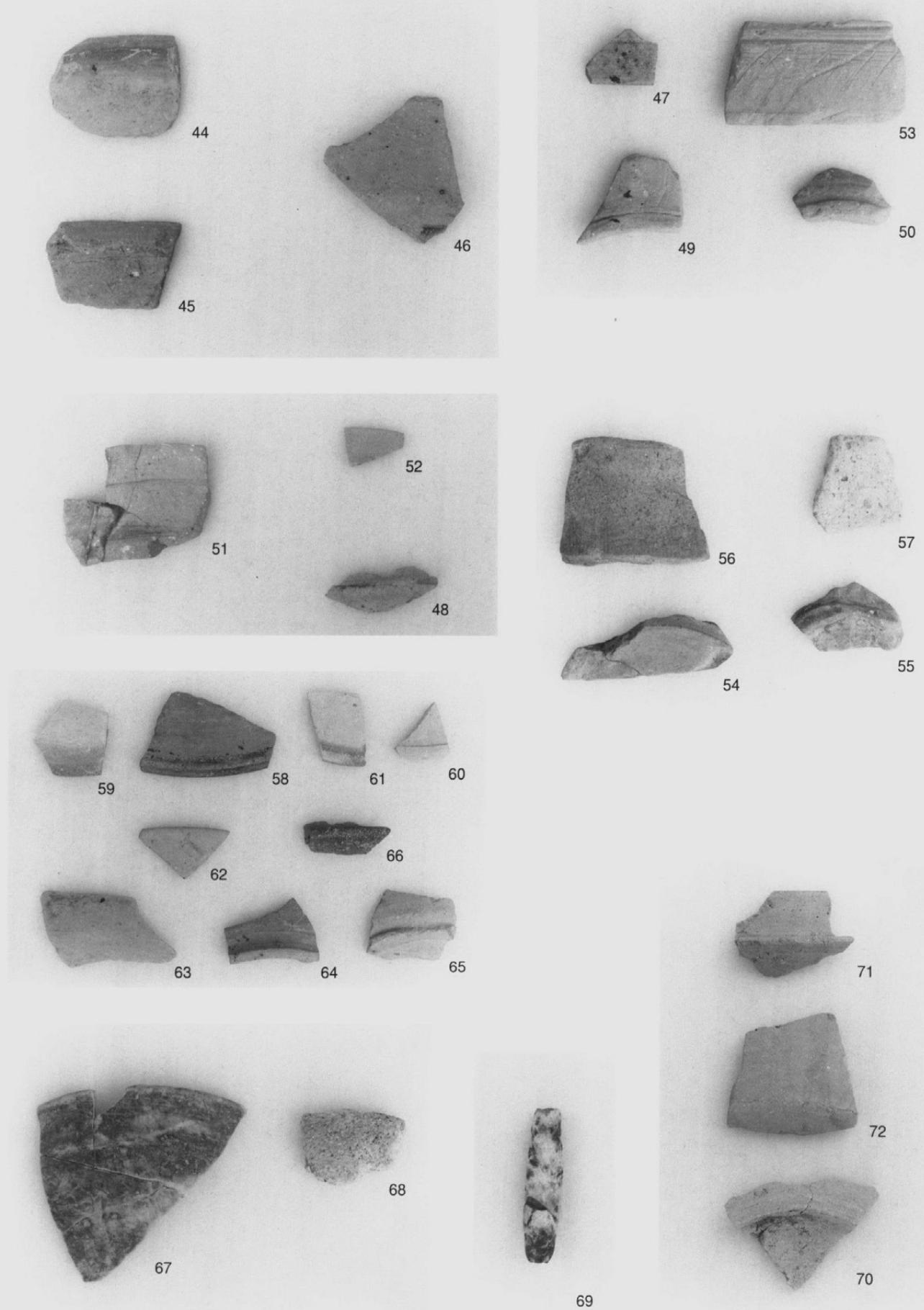
27



40



A トレンチ 包含層

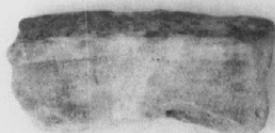


A トレンチ 包含層



73

Aトレンチ 包含層



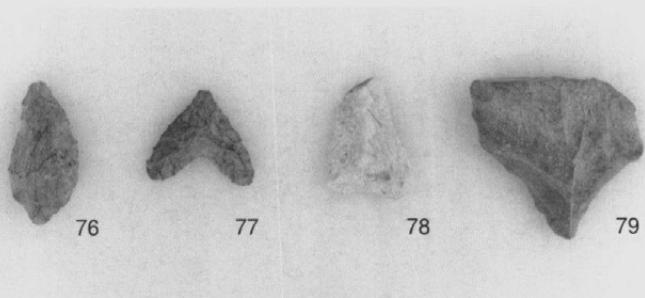
74

Aトレンチ 土坑1



75

Aトレンチ 流路



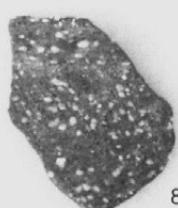
76

77

78

79

Aトレンチ 流路



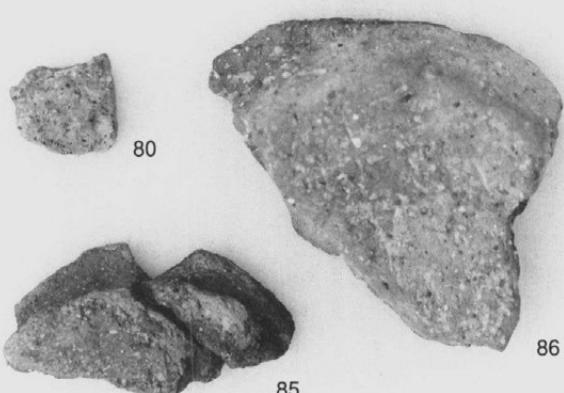
81



82



83
84



85



80



86

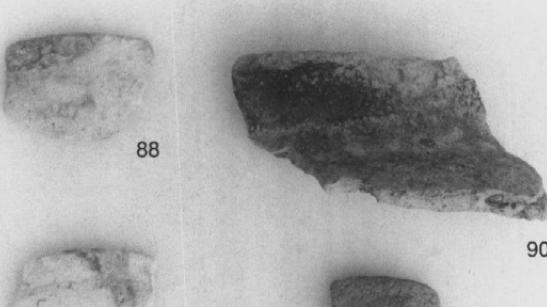
Aトレンチ 流路

Aトレンチ 流路



87

Bトレンチ 包含層



88



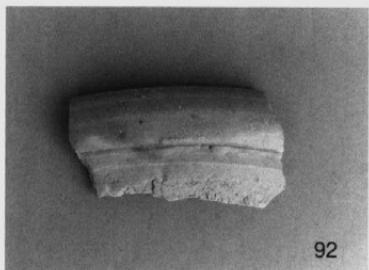
89

90

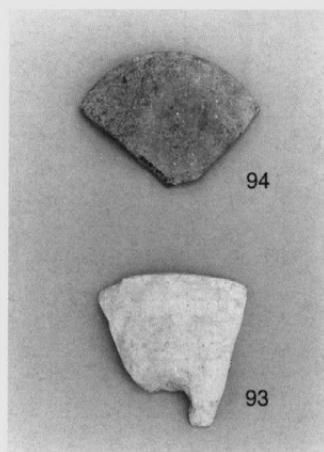


91

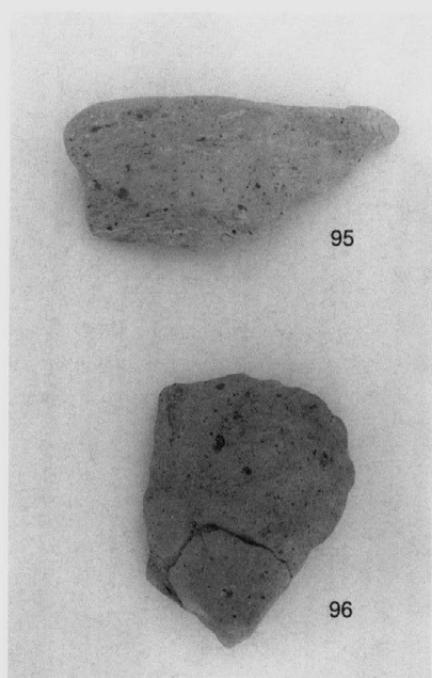
Bトレンチ 包含層



B トレンチ 包含層



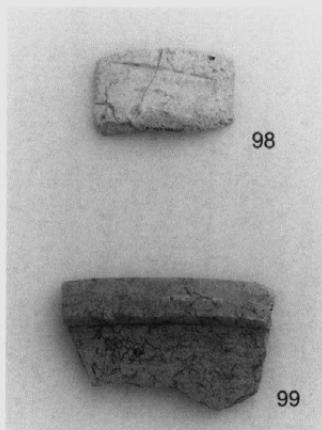
B トレンチ 包含層



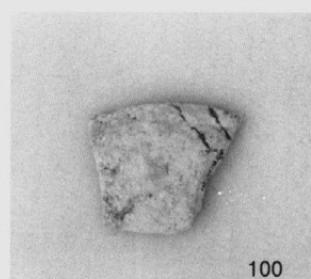
B トレンチ 包含層



B トレンチ 包含層



B トレンチ 包含層



B トレンチ 溝1

報告書抄録

ふりがな	うまがわきたいせきはつくつちょうさほうこくしょ							
書名	馬川北遺跡発掘調査報告書							
副書名	89-1区							
卷次								
シリーズ名	阪南市埋蔵文化財報告							
シリーズ番号	37							
編著者名	三好義三、田中早苗							
編集機関	阪南市教育委員会生涯学習部生涯学習推進課							
所在地	〒599-0292 大阪府阪南市尾崎町35-1 TEL 0724-71-5678							
発行年月日	2005年9月30日							
所収遺跡名	所在地	コード		北緯 °〃	東經 °〃	調査期間	調査面積	調査原因
馬川北遺跡	阪南市 下出	市町村番号 27232	遺跡番号 61	34° 21' 36"	135° 14' 57"	1989.10.25 ~ 1990.2.10	240m ²	道路
所収遺跡名	種別	主な時代		主な遺構		主な遺物		特記事項
馬川北遺跡	散布地	弥生時代 ~ 近世期		土坑、溝、鋤溝、 流路		縄文土器、弥生土器、 土師器、須恵器、瓦 器、白土器、陶器、 磁器、瓦、土師質蛸 壺、土師質土錘など		

阪南市埋蔵文化財報告 37

馬川北遺跡発掘調査報告書 - 89-1区 -

2005年9月30日

発行：阪南市教育委員会生涯学習部
生涯学習推進課
大阪府阪南市尾崎町35の1

印刷者：西岡総合印刷株式会社
和歌山市吹屋町5丁目54